

ERP 市場動向に関する調査を実施（2017年）

～市場の伸び率はやや減速、ERP パッケージベンダーによって明暗が分かれる傾向が見られる～

【調査要綱】

矢野経済研究所では、次の調査要綱にて、国内の ERP パッケージライセンス市場に関する調査を実施した。

1. 調査期間: 2017年4月～7月
2. 調査対象: ERP パッケージベンダー
3. 調査方法: 当社専門研究員による直接面談

<ERP パッケージとは>

ERP (Enterprise Resource Planning) パッケージとは、財務会計、人事給与、販売管理、生産管理などの基幹業務データを統合する情報システムを構築するための基幹業務管理パッケージソフトウェアを指す。また、本調査における ERP パッケージライセンス市場では、基幹業務の一部機能のみを持ち、ERP パッケージのモジュール (構成要素) となるパッケージソフトウェアも対象とした。

【調査結果サマリー】

◆ 2016年のERPパッケージライセンス市場は前年比4.4%増、伸び率はやや減速

2016年のERPパッケージライセンス市場は1,130億4,000万円(エンドユーザ渡し価格ベース)、前年比4.4%増となった。2015年及びここ数年の伸び率と比較するとやや減速となった。

2016年は法制度の改正や何らかのトレンドに影響されることのない年であったが、ユーザ企業の景況感は底堅く、ERP への投資は継続しており、単なる老朽化によるシステム更新のみではなく、経営環境の変化に対応するため、経営基盤であるERPを見直すユーザ企業が増えており、ERP市場の成長を支えている。こうした傾向は今後も底堅く、2017年の同市場は、前年比4.8%増の1,185億円(同ベース)になると予測する。

◆ ERPパッケージベンダーは、業績の明暗が分かれる傾向が見られる

ERPパッケージベンダーは、市場平均以上の成長を遂げた企業と、特段のマイナス要素があるわけではなくても売上が横這いやマイナスになった企業とに、明暗が分かれる傾向が見られた。業績好調な企業は、コンセプトを刷新した新製品の提供や、情報システム更新や企業グループでの一括導入などの需要を丁寧に拾うことができる販売力など、製品や販売、サービスに特長を持つ。市場の伸び率が鈍化しているなかで強みを発揮するためには、そうした特長を持つことが重要となっていると考える。

◆ クラウド化が本格化、さらなる進展が見込まれる

2016年以降、クラウドの利用が本格的に拡大している。導入スピードの早さ、運用コストの削減、コンプライアンスを確保しやすいなどのクラウドを利用するメリットが、ユーザ企業の規模を問わず幅広く評価されている。ERP パッケージベンダーが提供するクラウドサービスの種類も増加しており、今後もクラウド化は一層加速すると予測する。

◆ 資料体裁

資料名: 「ERP市場の実態と展望 2017」
 発刊日: 2017年7月28日
 体裁: A4判 315頁
 定価: 180,000円(税別)

◆ 株式会社 矢野経済研究所

所在地: 東京都中野区本町2-46-2 代表取締役社長: 水越 孝

設立: 1958年3月 年間レポート発刊: 約250タイトル URL: <http://www.yano.co.jp/>

本件に関するお問合せ先(当社HPからも承っております <http://www.yano.co.jp/>)

(株)矢野経済研究所 マーケティング本部 広報チーム TEL: 03-5371-6912 E-mail: press@yano.co.jp

本資料における著作権やその他本資料にかかる一切の権利は、株式会社矢野経済研究所に帰属します。
 本資料内容を転載引用等されるにあたっては、上記広報チーム迄お問合せ下さい。

【 調査結果の概要 】

1. 市場概況と予測

2016年の国内ERPパッケージライセンス市場は1,130億4,000万円(エンドユーザ渡し価格ベース)、前年比4.4%増となった。2015年(前年比8.0%増)及びここ数年の伸び率からするとやや減速となった。

2015年はマイナンバー(社会保障・税番号)制度施行を契機とした販促活動により、一部のERPパッケージベンダーが人事給与分野を中心に業績を伸ばしたが、2016年は法制度の改正や何らかのトレンドに影響されることのない年であった。また、リーマンショック時に一時民間企業によるIT投資が凍結され、その後しばらくは景気好転によるIT投資の再開が追い風となっていたが、2016年にもなるとそうした動きは終息している。そういった意味では、2016年は論点が乏しい年だったといえる。

一方、ユーザ企業の景況感は底堅く、ERPへの投資は継続しているが、単なる老朽化対策による情報システムリプレース需要には留まらず、デジタル変革が進み急激に変化する経営環境に対応するため、経営基盤であるERPを見直すユーザ企業が増えており、ERP市場の成長を支えている。こうした傾向は今後も底堅く、2017年の同市場は、前年比4.8%増の1,185億円(同ベース)になると予測する。

2. ERPパッケージベンダーの動向～好調か停滞気味か、業績の明暗が分かれる傾向へ

ERPパッケージベンダーの2016年の動向を見ると、前年比2桁増など市場平均以上の成長を遂げた企業と、特段のマイナス要素があるわけではなくても売上高が横這いやマイナスになった企業とに、明暗が分かれる傾向が見られた。

昨今、主要ERPパッケージベンダーは、クラウド化やデジタル変革への支援等をコンセプトとし、高速処理やAI(人工知能)搭載等の機能を持つ「モダンERP」と呼ばれる新しいタイプの新製品をリリースし、ユーザ企業の評価を得ている。経営環境やIT技術の大きな変化に伴い、ERPも進化しているといえる。一方で、自社の営業力や営業パートナーの販売網によって、情報システム更新や企業グループでの一括導入などの需要を丁寧に拾うことができる販売力が強いタイプのERPパッケージベンダーも順調に案件を獲得している。他方、競合他社に対して、製品力や販売力での差別化が遅れている企業は苦戦している。ERPパッケージライセンス市場の成長率が鈍化しているなかで強みを発揮するためには、各ERPパッケージベンダーは製品や販売、サービスに特長を持つことが重要となっていると考える。

3. 注目すべき動向～クラウド化が本格的に進展する見通し

ERP市場でのクラウドの利用が本格化している。いち早くクラウドにシフトしたCRM/SFAやその周辺システム(就業管理、タレントマネジメント等のシステム)と比較して、基幹システムであるERPはクラウド化が遅れていたが、その風向きは変わったといえる。

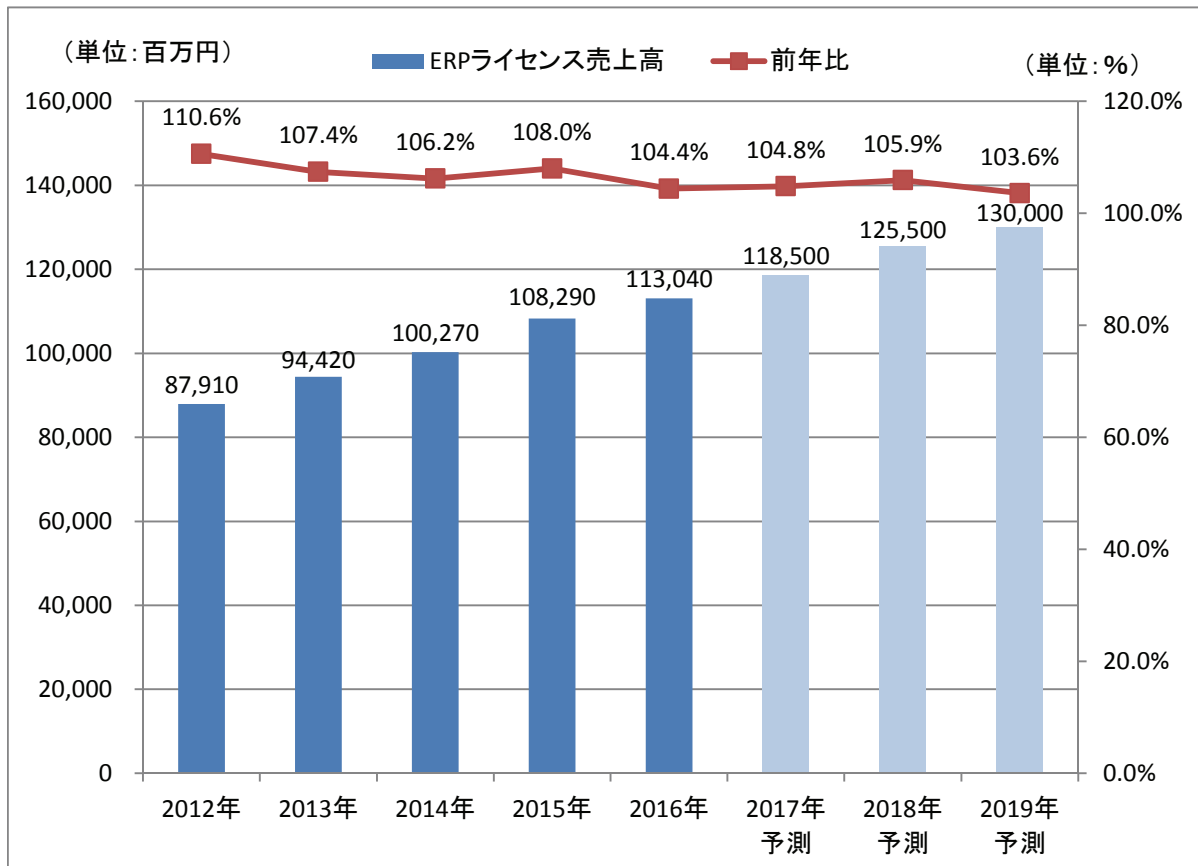
1～2年前までは、ERPでクラウドを利用するのはITの活用に積極的な大手ユーザ企業と、手軽なサービスを求める中小零細企業に両極化し、保守的な姿勢が強い中堅企業はクラウド利用に踏み切れない傾向がみられたが、現時点においては企業規模を問わずクラウドが採用され始めている。クラウドを利用するメリットである、導入スピードの早さ、運用コストの削減、コンプライアンスを確保しやすいなどの利点が、ユーザ企業において幅広く評価されるようになってきている。

ERPパッケージベンダー側も「クラウドファースト」の姿勢を強めており、新たにSaaSの提供を開始する等、クラウドサービスの種類も増えている。今後のERP市場において、クラウド化は一層加速すると予測する。

図表 1. ERP パッケージライセンス市場の市場規模推移と予測

(単位:百万円、%)

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年 予測	2018年 予測	2019年 予測
ERPライセンス売上高	87,910	94,420	100,270	108,290	113,040	118,500	125,500	130,000
前年比	110.6%	107.4%	106.2%	108.0%	104.4%	104.8%	105.9%	103.6%
CAGR	-	7.4%	6.8%	7.2%	6.5%	6.2%	6.1%	5.7%



矢野経済研究所推計

注 1:エンドユーザ渡し価格ベース

注 2: 2017年以降は予測値

注 3:CAGR は2012年から当該年までの年平均成長率